熊本高等専門学校	共通教育科（熊本）	開講年度	令和02年度 (2020年度)

学科到達目標

(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者
1-1：日本語における適切な文章表現および口頭の意思伝達ができる
1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめる
1-3：自分の考え方を簡潔な英語で表現できる
(2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者
2-1：ICT技術に関する基礎的技術を身につける
2-2：種々の情報を分析する技術を身につける
(3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能およびその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者
3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける
3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができる
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる
3-4：基礎的な実験技術を身につける
(4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者
4-1：広い視野で物事を考えることができる
4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができる
4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身につける
4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる
(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができる
(6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者
6-1：好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる
6-3：主体的に継続的に学習できる

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	HR	0001	履修単位	1	1	1																			石田 明男	
一般	必修	HR	0002	履修単位	1	1	1																			髙木 朝子	
一般	必修	HR	0003	履修単位	1	1	1																			堀本 博	
一般	選択	チャレンジセミナー	LK2151	学修単位	1	集中講義																				教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	チャレンジセミナー	LK2151	学修単位	1	集中講義																				小田川裕之,教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	国際・異文化理解	LK2152	学修単位	1	集中講義																				教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	基礎科目応用	LK2153	学修単位	1	集中講義																				教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	特別学習	LK2154	学修単位	1	集中講義																				教務係（または非常勤講師）	
一般	必修	HR	0011	履修単位	1					1	1															山崎 充裕	
一般	必修	HR	0012	履修単位	1					1	1															松尾 かな子	
一般	必修	HR	0013	履修単位	1					1	1															岩田 大助	

一般	選択	基礎科目応用第一	LK1151	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	基礎科目応用第二	LK1152	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	基礎科目応用第三	LK1153	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	特別学習第一	LK1154	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	特別学習第二	LK1155	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	地域社会活動二	LK1156	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	地域社会活動一	LK1157	学修単位	1	0.5 0.5	教務係（または非常勤講師）	
一般	選択	国際・異文化理解	LK1158	学修単位	1	集中講義	教務係（または非常勤講師）	

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	石田 明男		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 4-1

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		

	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	髙木 朝子		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	堀本 博		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	チャレンジセミナー

科目基礎情報

科目番号	LK2151	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。
・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどで収めた優れた成績・成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。

ルーブリック

	達成目標
ロボットコンテスト	地域大会優勝・準優勝、全国大会進出チームメンバー
プログラミングコンテスト	・課題・自由部門（最優秀賞、優秀賞チームメンバー） ・競技部門 （優勝、準優勝、第三位チームメンバー）
デザインコンペティション	各部門　最優秀賞、優秀賞（チームメンバー）
英語プレゼンテーションコンテスト	・個人部門　地区大会１位入賞者及び全国大会１位から３位入賞者 ・チーム部門　地域大会１位入賞チームメンバー及び全国大会１位から３位チームメンバー
廃炉創造ロボコン	最優秀賞、優秀賞 チームメンバー
各種学術・アイデアコンテスト（教務委員会審議により認可）	地区大会１位入賞（チームメンバー）全国大会１、２位入賞（チームメンバー）

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動及びコンテストでのチャレンジ的な努力を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテストなど（教務委員会認可）学術・アイデアコンテストの優れた成果・成績が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・この科目は1単位を上限とする。
授業の進め方・方法	対象コンテストの性質、地域・全国大会と該当上位入賞レベルは教務委員会で検討し判断する。
注意点	・修得認定は上記の活動について申請することによって科目の修得が認定される。 ・単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し、該当すると判断されたなら、1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	活動時間	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	国際・異文化理解

科目基礎情報

科目番号	LK2152	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	担当教員作成による資料配付		
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

異文化理解とその活用力について知るために次の３項目を具体的な目標とする。
(1)多様な文化、多様な価値観の存在を理解し説明できる。
(2)上記の「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できる。
(3)「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	体験を通して異なる文化や価値観が存在することを理解し、説明できる。	知識として異なる文化や価値観が存在することを理解している。	多様な文化，価値観の存在に気づけない。
評価項目2	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明でき、対応例を挙げられる。	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できる。	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できない。
評価項目3	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明でき、相乗効果を引き出す例やアイデアについて説明できる。	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できる。	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	世界の諸地域の人々との相互依存関係にあることを認識し、共生・共存のために文化の多様性と豊かさを肯定的に捉えることと、世界における日本、日本における世界との関係を考える。 本科目では、以下の2つの取り組みについて評価し、いずれか一方に取り組めば良い。 1) 集中講義形式による座学を通して知識を得る 2) 協定校等海外学生受け入れプログラムに参加することで、体験を通して異文化理解に努める
授業の進め方・方法	1) 課題発表とレポートにより評価する。評価の比率は課題発表が50%、レポート50%とする。総合評価の得点率が60%以上を合格とする。 2) 事前研修・準備に参加した時間及び受け入れプログラム参加時間の合計が30時間以上で合格とする。
注意点	この講義はPBL方式を導入して行うため、チーム内の協調や課題の解決方法に関する発表などが要求される。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	国際的な活動を行なっている講師などを招聘し、講演を聴講する。	講演内容を理解し、海外の社会情勢および文化等についての知識に基づいて行動することができる。
		2週	以降、開講期間に合わせた活動を行う。	
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		

		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	レポート	課題発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
実践能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	基礎科目応用

科目基礎情報

科目番号	LK2153	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である．
・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる．
・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない．
・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる．

ルーブリック

対象となる資格試験	一覧表（http://www.kumamoto-nct.ac.jp/file/syllabus/k/2016/LK151-table.html）を参照のこと．

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は個性を伸ばす教育の一つとして，各自の積極的な学習活動を評価するものである．学生が自発的に行う学習活動で，教育上有益と認められるものについて，漢字検定や実用英語検定などの資格取得があった場合に，単位の修得を認定する．但し，この修得単位は学生自身からの申請に基づき認定される．
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である． ・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる． ・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない． ・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる．
注意点	修得認定は上記の資格試験について，本校在学中に取得した場合には，各自の単位認定申請により，資格取得年度の単位として認定を行うものとする．認定された取得資格に相当する換算単位時間の合計が３０単位時間以上の場合，単位申請を行うことによって，科目の修得が認定される．単位の修得を認定されたものの評価は「Ｓ」とする． 授業科目との関連性があり，低学年から積極的に取り組むことが大切である．上記以外で，類似すると思われる資格取得の単位修得については，共通教育科の申し出により，教務委員会で検討し，相当する換算単位時間を定め，科目の修得を認めることがある．

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	対象となる資格の取得	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特別学習

科目基礎情報

科目番号	LK2154	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。
・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。

ルーブリック

	時数	達成目標
ロボットコンテスト	30	チームメンバー（30単位時間以上の活動）
プログラミングコンテスト	30	チームメンバー（30単位時間以上の活動）
デザインコンペティション	30	チームメンバー（30単位時間以上の活動）
廃炉創造ロボコン	30	チームメンバー（30単位時間以上の活動）
環境ボランティア	30	30単位時間以上の活動
ボランティア	30	30単位時間以上の活動
バイク講習会学生指導員ボランティア	30	30単位時間以上の活動
特別講義等	30	30単位時間以上の活動

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・学習活動の蓄積で評価されるので、低学年の内から積極的に取り組むことが大切である。 ・この科目は1単位を上限とする。
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は1~5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 規定授業時数＝換算単位時間
注意点	・修得認定は上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し、該当すると判断されたなら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	活動時間	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	山崎 充裕		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 4-1

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		

	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0012	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	松尾 かな子		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	クラス委員決め、指導方針説明等	円滑なクラス運営および自己研鑽のために務められそうな役割を見つけることが出来る。
		2週	クラスマッチ出場種目決定	クラスの一員として５月に行われるクラスマッチで自分が貢献できそうな種目を決定することが出来る。
		3週	ネット依存予防に関して	自己のネット利用法について振り返り、問題点・改善点・改善手法等について班でアイディアを出し合い、意見をまとめることが出来る。
		4週	校長講話（仮）	校長の話を聞いて、自己分析を行い、今後のより良い学生生活に役立てることが出来る。
		5週	副校長講話（仮）	副校長の話を聞いて、自己分析を行い、今後のより良い学生生活に役立てることが出来る。
		6週	前期中間試験の目標設定	自己研鑽に繋がり、かつ努力可能な目標を設定することが出来る。
		7週	前期中間試験に向けての勉強会（１）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
		8週	前期中間試験に向けての勉強会（２）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
	2ndQ	9週	前期中間試験の振り返りと今後の過ごし方について	試験前に立てた目標について、ふりかえり手法を用いて振り返り、より良い学生生活を送る方法について自分なりに考えることが出来る。
		10週	進路について(1)講話	講話を聴き、自分の将来像について思いを馳せることが出来る。
		11週	進路について(2)グループ討議	講話を基に、将来の自分の夢と近い夢を持つ者同士でグループを作り、実現のために有効な取り組み方について討議することが出来る。
		12週	進路について(3)まとめ	討議の結果を簡単なプレゼンテーションとして、クラス内で発表し、互いに意見交換を行うことが出来る。
		13週	前期定期試験の目標設定	自己研鑽に繋がり、かつ努力可能な目標を設定することが出来る。
		14週	前期定期試験に向けての勉強会（１）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。

		15週	前期定期試験に向けての勉強会（２）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
		16週	前期定期試験の振り返りと夏休みの諸注意	試験前に立てた目標について、ふりかえり手法を用いて振り返り、より良い学生生活を送る方法について自分なりに考えることが出来る。
後期	3rdQ	1週	夏休みの振り返り・電波祭の概要説明	夏季休暇中の生活について振り返ることが出来る。電波祭実行委員から電波祭での役割について話を聞き、自分に何が出来るか考えることが出来る。
		2週	ネットリテラシー講習会（仮）	SNSツールでの発言で気を付けるべきマナーについて理解し、それに基づいた言動を行うことが出来る。
		3週	電波祭クラス出展準備（１）	クラス・学内での自身の役割を理解し、電波祭の成功を目指して貢献することが出来る。
		4週	電波祭クラス出展準備（２）	クラス・学内での自身の役割を理解し、電波祭の成功を目指して貢献することが出来る。
		5週	電波祭反省	電波祭を振り返り、良かった点・改善点等をクラス内で検討し、次年度に繋げられる。
		6週	後期中間試験の目標設定	自己研鑽に繋がり、かつ努力可能な目標を設定することが出来る。
		7週	後期中間試験に向けての勉強会（１）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
		8週	後期中間試験に向けての勉強会（２）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
	4thQ	9週	後期中間試験の振り返りと今後の過ごし方について	試験前に立てた目標について、ふりかえり手法を用いて振り返り、より良い学生生活を送る方法について自分なりに考えることが出来る。
		10週	個人面談	進路や生活について振り返ることが出来る。
		11週	冬休みの注意	有意義な休暇となるよう努めることが出来る。
		12週	後期定期試験の目標設定	自己研鑽に繋がり、かつ努力可能な目標を設定することが出来る。
		13週	後期定期試験に向けての勉強会（１）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
		14週	後期定期試験に向けての勉強会（２）	級友たちと情報交換し、自己の学習に繋げることが出来る。
		15週	後期定期試験の振り返りと次年度の過ごし方について	試験前に立てた目標について、ふりかえり手法を用いて振り返り、より良い学生生活を送る方法について自分なりに考えることが出来る。
		16週	１年間の振り返り	１年を振り返り、良かった点・改善点・今後の目標について考え、クラス内で発表することが出来る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	HR

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	必要に応じてプリント等		
担当教員	岩田 大助		

到達目標

ホームルーム活動を通じてより良い自己とクラスの実現に向けて能動的に努力する姿勢と行動力を身に付けることが目標である.
　到達目標は，下記を設定する.
1. 集団活動：クラス目標や計画立案・共同生活における集団づくりや，学校行事および学生会行事における集団活動への積極的姿勢と行動力
2. 個人研鑽：視野の拡大(他者の話の傾聴，職業観や校外見学など)，勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題など望ましい生き方に関すること，将来目標の設定

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
出席状況	ほとんどのホームルーム活動に参加している	ホームルーム活動に出席しないことが稀である	ホームルームの活動に著しく出席していない
活動ー集団活動	ホームルーム内での集団づくりや活動において主体的かつ積極的に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加している	ホームルーム内での集団づくりや活動に参加できない
活動ー個人研鑽	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができ，実際に行動に移すことができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができる.	自身の将来や人として望ましい生き方について考えることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高専では，授業科目の他に特別活動の実施があります．特別活動は，全学年を対象にした各種行事(学生会活動を含む)と１年から３年までの学生を対象にしたホームルームの二つに分けられます. 全学年を対象にした特別活動は，入学式，卒業式，始業式，終業式，全校集会，学生会活動(対面式，クラブ紹介，クラスマッチ，電波祭およびその準備等). 本シラバスでは，ホームルームに関する内容について主に記載する.
授業の進め方・方法	ホームルームは，週１回，授業時間割の中で実施され，次に示すような内容を取り上げる. 1. 学年別共通テーマ：ホームルームの計画立案，学校行事および学生会行事に関すること，休業中の反省と新年の豊富 2. ホームルームとしての共同生活に関すること：ホームルーム内の集団づくりのための諸行事(校外見学等) 3. 人間として望ましい生き方に関する問題：勉強とクラブ活動，交通道徳，先生と学生，青年期の諸問題 4. 将来の進路についての問題：進路の決定と学修，職業観と職場について 5. レクリエーション：各種スポーツ，音楽鑑賞，映写会，読書会，ゲーム 6. 校長講話，主事・学科長の話，先生の話 7. その他
注意点	ホームルームは50分で実施する. ホームルームを含む特別活動については，出席状況が，実施時数の5分の1以下(長期病欠者および三ヶ月以下の短期留学者は3分の1以下)の欠課，かつ活動良好なものについて「合格」と認定されます.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	出席・活動状況	合計
総合評価割合	100	100
参加状況	100	100

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	基礎科目応用第一

科目基礎情報

科目番号	LK1151	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である.
・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる.
・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.

ルーブリック

対象となる資格試験	一覧表（http://www.kumamoto-nct.ac.jp/file/syllabus/k/2016/LK151-table.html）を参照のこと.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は個性を伸ばす教育の一つとして，各自の積極的な学習活動を評価するものである．学生が自発的に行う学習活動で，教育上有益と認められるものについて，漢字検定や実用英語検定などの資格取得があった場合に，単位の修得を認定する．科目は第一，第二及び第三に分けられ，各単位数は１単位であり，最高３単位まで認められる. 但し，この修得単位は学生自身からの申請に基づき認定される．またこの修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない.
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である. ・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる. ・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない. ・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.
注意点	修得認定は上記の資格試験について，本校在学中に取得した場合には，各自の単位認定申請により，資格取得年度の単位として認定を行うものとする．認定された取得資格に相当する換算単位時間の合計が３０単位時間以上の場合，単位申請を行うことによって，科目の修得が認定される．単位の修得を認定されたものの評価は「Ｓ」とする. 授業科目との関連性があり，低学年から積極的に取り組むことが大切である．上記以外で，類似すると思われる資格取得の単位修得については，共通教育科の申し出により，教務委員会で検討し，相当する換算単位時間を定め，科目の修得を認めることがある.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	対象となる資格の取得	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	基礎科目応用第二

科目基礎情報

科目番号	LK1152	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である.
・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる.
・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.

ルーブリック

対象となる資格試験	一覧表（http://www.kumamoto-nct.ac.jp/file/syllabus/k/2016/LK151-table.html）を参照のこと.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は個性を伸ばす教育の一つとして，各自の積極的な学習活動を評価するものである．学生が自発的に行う学習活動で，教育上有益と認められるものについて，漢字検定や実用英語検定などの資格取得があった場合に，単位の修得を認定する．科目は第一，第二及び第三に分けられ，各単位数は１単位であり，最高３単位まで認められる. 但し，この修得単位は学生自身からの申請に基づき認定される．またこの修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない.
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である. ・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる. ・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない. ・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.
注意点	修得認定は上記の資格試験について，本校在学中に取得した場合には，各自の単位認定申請により，資格取得年度の単位として認定を行うものとする．認定された取得資格に相当する換算単位時間の合計が３０単位時間以上の場合，単位申請を行うことによって，科目の修得が認定される．単位の修得を認定されたものの評価は「Ｓ」とする. 授業科目との関連性があり，低学年から積極的に取り組むことが大切である．上記以外で，類似すると思われる資格取得の単位修得については，共通教育科の申し出により，教務委員会で検討し，相当する換算単位時間を定め，科目の修得を認めることがある.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	対象となる資格の取得	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	基礎科目応用第三

科目基礎情報

科目番号	LK1153	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である.
・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる.
・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.

ルーブリック

対象となる資格試験	一覧表（http://www.kumamoto-nct.ac.jp/file/syllabus/k/2016/LK151-table.html）を参照のこと.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は個性を伸ばす教育の一つとして，各自の積極的な学習活動を評価するものである．学生が自発的に行う学習活動で，教育上有益と認められるものについて，漢字検定や実用英語検定などの資格取得があった場合に，単位の修得を認定する．科目は第一，第二及び第三に分けられ，各単位数は１単位であり，最高３単位まで認められる. 但し，この修得単位は学生自身からの申請に基づき認定される．またこの修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない.
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である. ・資格取得が複数学年に渡った場合でも，複数の資格を組み合わせた場合でも申請できる. ・１単位の修得に要する換算単位時間は３０単位時間以上とする．余った換算時間数は他の単位申請には使用できない. ・同種に資格については、級が異なる場合は１度のみ申請できる.
注意点	修得認定は上記の資格試験について，本校在学中に取得した場合には，各自の単位認定申請により，資格取得年度の単位として認定を行うものとする．認定された取得資格に相当する換算単位時間の合計が３０単位時間以上の場合，単位申請を行うことによって，科目の修得が認定される．単位の修得を認定されたものの評価は「Ｓ」とする. 授業科目との関連性があり，低学年から積極的に取り組むことが大切である．上記以外で，類似すると思われる資格取得の単位修得については，共通教育科の申し出により，教務委員会で検討し，相当する換算単位時間を定め，科目の修得を認めることがある.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	対象となる資格の取得	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特別学習第一

科目基礎情報

科目番号	LK1154	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。
・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。
・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。
・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。

ルーブリック

	時数	達成目標
ロボットコンテスト	30	チームメンバー
プログラミングコンテスト	30	チームメンバー
特別講義等	30	30単位時間以上の活動
特別講義等	実単位時間	30単位時間未満の活動
環境ボランティア	30	30単位時間以上の活動
環境ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
バイク講習会学生指導員ボランティア	30	30単位時間以上の活動
バイク講習会学生指導員ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
ボランティア	30	30単位時間以上の活動
ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
廃炉創造ロボコン	30	30単位時間以上の活動
廃炉創造ロボコン	実単位時間	30単位時間未満の活動

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・学習活動の蓄積で評価されるので、低学年の内から積極的に取り組むことが大切である。 ・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。 ・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は1~5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 規定授業時数＝換算単位時間
注意点	・修得認定は上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、特別学習第一、および第二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ★ただし、同種の活動はいずれか一方の申請にしか使用できず、特別学習第一と第二の両方に申請することはできない。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し、該当すると判断されたなら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	活動時間	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	特別学習第二

科目基礎情報

科目番号	LK1155	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。
・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。
・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。
・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。

ルーブリック

	時数	達成目標
ロボットコンテスト	30	チームメンバー
プログラミングコンテスト	30	チームメンバー
特別講義等	30	30単位時間以上の活動
特別講義等	実単位時間	30単位時間未満の活動
環境ボランティア	30	30単位時間以上の活動
環境ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
バイク講習会学生指導員ボランティア	30	30単位時間以上の活動
バイク講習会学生指導員ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
ボランティア	30	30単位時間以上の活動
ボランティア	実単位時間	30単位時間未満の活動
廃炉創造ロボコン	30	30単位時間以上の活動
廃炉創造ロボコン	実単位時間	30単位時間未満の活動

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・この科目は個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学習活動を評価するものである。 ・学生が自発的に行う学習活動で、教育上有益と認められるものについて、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ボランティア、特別講義などの成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 ・学習活動の蓄積で評価されるので、低学年の内から積極的に取り組むことが大切である。 ・科目は第一、第二に分けられ、各単位数は1単位である。 ・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は1~5年の各学年で可能である。 ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる。 ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる。 ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない。 規定授業時数＝換算単位時間
注意点	・修得認定は上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、特別学習第一、および第二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ★ただし、同種の活動はいずれか一方の申請にしか使用できず、特別学習第一と第二の両方に申請することはできない。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し、該当すると判断されたなら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	活動時間	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	地域社会活動二

科目基礎情報

科目番号	LK1156	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である.
・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる.
・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる.
・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
規定授業時数＝換算単位時間

ルーブリック

地域社会における行事に関する活動および、科学技術活動	30単位時間以上の活動

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は、個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学修活動を評価するものである。 学生が自発的に行う学修活動で、教育上有益と認められるものについて、学外での各種科学技術活動や地域での行事に関する活動などについて成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 科目は一、二に分けられ、各単位は1単位である。 ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である. ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる. ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる. ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
注意点	・修得認定は、上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、地域社会活動一及び二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ・ロボコン、環境ボランティアなどの校内活動は特別学習で申請することとする。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し該当すると判断されたら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	試験	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	地域社会活動一

科目基礎情報

科目番号	LK1157	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である.
・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる.
・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる.
・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
規定授業時数＝換算単位時間

ルーブリック

地域社会における行事に関する活動および、科学技術活動	30単位時間以上の活動

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は、個性を伸ばす教育の一つとして、各自の積極的な学修活動を評価するものである。 学生が自発的に行う学修活動で、教育上有益と認められるものについて、学外での各種科学技術活動や地域での行事に関する活動などについて成果が認められた場合に、単位の修得を認定する。 科目は一、二に分けられ、各単位は1単位である。 ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。
授業の進め方・方法	・単位の認定申請は１～５年の各学年で可能である. ・活動が複数の学年に渡った場合、前年度のものとの合算であれば申請できる. ・複数の活動を組み合わせた場合でも申請できる. ・余った換算時間数は他の単位申請には使用できない.
注意点	・修得認定は、上記の活動について各換算単位時間を設定し、それらの合計が30単位時間以上で申請することによって科目の修得が認定される。 ・履修単位に応じて、地域社会活動一及び二のいずれか一方または両方を選択でき、単位の修得を認定されたものの評価は「S」とする。 ・ロボコン、環境ボランティアなどの校内活動は特別学習で申請することとする。 ・上記以外で、類似すると思われる学修活動の単位修得については、教務委員会で検討し該当すると判断されたら、単位時間に換算し、30単位時間以上で1単位として認めることがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	試験	合計
総合評価割合	0	0
基礎的能力	0	0
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	国際・異文化理解

科目基礎情報

科目番号	LK1158	科目区分	一般 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（熊本）	対象学年	2
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	担当教員作成による資料配付		
担当教員	教務係 （または非常勤講師）		

到達目標

異文化理解とその活用力について知るために次の３項目を具体的な目標とする。
(1)多様な文化、多様な価値観の存在を理解し説明できる。
(2)上記の「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できる。
(3)「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	体験を通して異なる文化や価値観が存在することを理解し、説明できる。	知識として異なる文化や価値観が存在することを理解している。	多様な文化，価値観の存在に気づけない。
評価項目2	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明でき、対応例を挙げられる。	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できる。	「差異」について柔軟な対応とは何かを説明できない。
評価項目3	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明でき、相乗効果を引き出す例やアイデアについて説明できる。	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できる。	「差異」を認識し、相乗効果を引き出すことの重要性を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	世界の諸地域の人々との相互依存関係にあることを認識し、共生・共存のために文化の多様性と豊かさを肯定的に捉えることと、世界における日本、日本における世界との関係を考える。 本科目では、以下の2つの取り組みについて評価し、いずれか一方に取り組めば良い。 1) 集中講義形式による座学を通して知識を得る 2) 協定校等海外学生受け入れプログラムに参加することで、体験を通して異文化理解に努める ・ただし、この修得単位は卒業認定に必要な単位には含めない。
授業の進め方・方法	1) 課題発表とレポートにより評価する。評価の比率は課題発表が50%、レポート50%とする。総合評価の得点率が60%以上を合格とする。 2) 事前研修・準備に参加した時間及び受け入れプログラム参加時間の合計が30時間以上で合格とする。
注意点	この講義はPBL方式を導入して行うため、チーム内の協調や課題の解決方法に関する発表などが要求される。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	国際的な活動を行なっている講師などを招聘し、講演を聴講する。	講演内容を理解し、海外の社会情勢および文化等についての知識に基づいて行動することができる。
		2週	以降、開講期間に合わせた活動を行う。	
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		

		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	レポート	課題発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
実践能力	0	0	0